親しく正しく和かに
当山先々代三吉日照上人の提唱による当山スローガンです
揮毫＝大本山本興寺御閑士大平日晋上人

季刊『寺楽寿』は東京都世田谷区北烏山の法華宗（本門流）
本覺山妙壽寺が発行する寺報です。
檀信徒の皆さまをはじめ、妙壽寺にご縁のある皆さまに
広くお読みいただければ幸いです。

寺楽寿（てらす）

No.34
平成 30 年 10 月 1 日発行

本覺山　妙壽寺〈法華宗（本門流）〉
〒157-0061 東京都世田谷区北烏山 5-15-1
電話 03-3308-1251 FAX.03-3308-7427
ホームページ http://myojyuji.or.jp

無縁社会と寺縁（じえん）その31

本年4月から法華宗（本門流）より出向し公益財団法人全日本仏教会の理事となって初めての会議に出席しました。日本唯一の全日本仏教会は、各宗派と都道府県仏教会、そして各種仏教団体より構成されていますが、宗派間の連絡調整にとどまらず、現代社会の中で、さまざまな今日的課題にも取り組んでおります。

ところで、全国の寺院はどのくらいあるかご存知でしょうか。寺院や布教所の所謂、宗教法人の数は7万5000あります。この数はコンビニエンスストアの大手5社合計が5万5000ですから、それよりも2万多いことになります。コンビニが夜間も電飾で目立つのに対し、意外に私たちの身近にあるのが〝お寺〟であると言うことができます。ちなみに神社は小さなお社なども含め8万5000、お一人の神主さんが数社を兼務しているのが実態のようです。

さて、今年は春過ぎより大阪北部地震、そして西日本集中豪雨、さらに記録的な猛暑とまさに災害の続く年となりました。

全日本仏教会では、被災地や当該地域の被災寺院の実状調査や、全日本仏教青年会や他のボランティア団体と協力して、仏教各団体の支援の調整や義捐金の勧募などを行っています。外からはなかなかわかりにくいですが、地道な活動といえます。新しい事としては、東京都仏教連合会が東京都宗教連盟と共に被災時避難者受け入れのネットワーク作りを始めています。

次代の仏教寺院は少子高齢化の中にあって、地域の再生や新しいコミュニティの場としての役割を担う時期に来ていると思います。

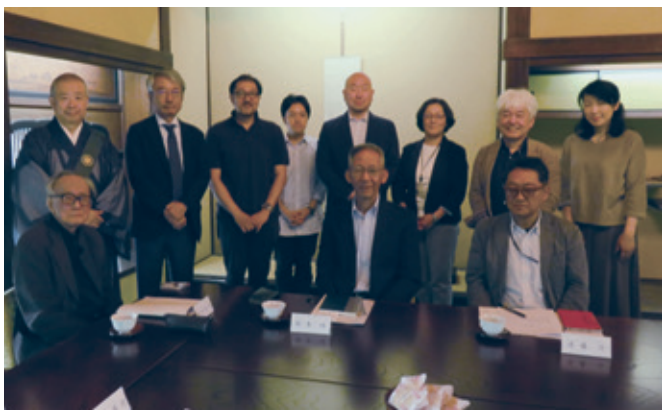
鴉　鵠

写真集『妙壽寺の四季』刊行
10月初旬に発刊予定。
お楽しみに！

写真：当山玄関奥坪庭の大賀（おおが）ハス。当住上人撮影

鍋島客殿保存会設立

6月18日、鍋島客殿保存会設立の会合が同客殿で開催されました。その目的は、十年余以降の解体修理事業等に備え、調査研究等を行っていくもので、今後、内田祥哉先生（東京大学名誉教授・当山総代）を中心に進めて参ります。



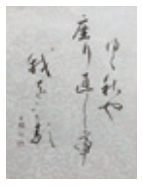
前列　左から、内田祥哉（東京大学名誉教授・当山総代）、坂本功（東京大学名誉教授、一般財団法人日本建築防災協会理事長）、後藤治（工学院大学理事長）
後列　左から、三吉廣明（妙壽寺住職）、重枝豊（日本大学教授、世田谷区文化財保護審議会委員）、田中昭之（建文・建築文化研究所）、木川正也（建文・建築文化研究所）、大谷昇（世田谷区教育委員会 文化財係長）、佐藤明子（世田谷区教育委員会 文化財資料調査員）、三浦清史（こうだ建築設計事務所）、平井ゆか（内田祥哉建築研究室）　〈敬称略〉

平成30年7月 豪雨による災害のお見舞いを申し上げます。
当山受付にて義援金勧募中

寺日記（てらにっき）

- ●5月22日　深川玉泉院本葬儀　井上日宏先生（承智院日宏上人法寿90歳　東京ブディストクラブ）本葬儀
- ●6月1・2日　日本橋倶楽部　京都研修会（竹茂楼）
- ●6月2日　岐阜円経寺渡辺元秀先生訪問　御見舞（当住恩師）
- ●6月4日　全日本仏教会第34期理事会　於 芝グランドホテル
- ●6月7日　棚経会（7月お盆棚経打ち合せ）
- ●6月8日　猿江別院第2回写経会
- ●6月9日　淡交会地区大会　於 ホテルニューオータニ
- ●6月16日　法華コモンズ　大平宏龍法華宗興隆学林長講義　於 新宿常圓寺
- ●6月17日　小倉三喜雄氏（当住友人）結婚式　天王洲アイル第一ホテル東京シーフォート
- ●6月18日　鍋島客殿保存会設立会合（別掲）
- ●6月21日　伊東・稲葉芳枝刀自（サンフランシスコ日蓮教会創立者石田日天上人内室千代子夫人義妹 105歳）葬儀
- ●6月25日　稲生家新居祈願法要
- ●6月26日　総代会　於 帝国ホテル
- ●6月27日　日蓮門下連合会身延理事会❶
- ●7月1日　新宿浄風寺当山団参　京都大本山妙蓮寺御貫首別所日山猊下ご自坊新宿浄風寺御一行20余名にて当山鍋島客殿等見学団参。
- ●7月上旬～15日　棚経ご回向週間
- ●7月16日　当山盂蘭盆施餓鬼法要　盂蘭盆法要において、本年新盆を迎えられた植田・大野両御総代、当住徒弟秋山法尼はじめ、当山ゆかりの女優朝丘雪路さんの回向が行われました。当日は、猛暑の中450名を超える参拝をいただきました。
- ●7月18日　八王子信松院本葬儀　西村輝成先生（渓山輝成大和尚88歳元全日本仏教会副会長・東京ブディストクラブ）本葬儀。
- ●7月22日　勝田深氷先生（伊東深水画伯子息）七回忌法要　於 目黒隆崇院
- ●7月27日　浅見慈一師能楽講演会　於 日本橋倶楽部
- ●8月3日　猿江別院第3回写経会
- ●8月6日　大野典也先生（当山総代）お別れ会❷　於 東京慈恵会医科大学一号館6講堂
- ●8月14日　第53回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典　新日本宗教青年会連盟主催　於 千鳥ヶ淵戦没者墓苑
- ●8月15日　戦争犠牲者終戦追悼唱題行
- ●8月18日　今市瑞光寺一周忌　瑞光寺第二世常祥院日倞（高村法顕）上人第一周忌法要御導師感応寺住職福島典雄上人
- ●8月20日　猿江別院稲生家祥月忌　別院再建大檀越稲生雅治元総代（智徳院法音日雅大居士）祥月忌法要

❶日蓮聖人門下連合会 身延理事会（中央列右から4人目が当住上人）



「ゆく秋や座り直して我をみる」当山先々代大僧正日照上人俳句。早苗靖夫当山総代書（平成30年夏）

❷

一之輔落語 & 竹灯籠能「紅葉狩」

前場で上臈の華やかで妖艶な世界、後場では維茂と鬼神の壮絶な戦い。
異なる世界に転回して観客をぐいぐいと引き込んでいく…。

平成30年11月24日（土）
13：30（開場 13：00）～ 17：40　於 妙壽寺本堂

13：30～15：00	第一部	春風亭一之輔独演会
15：30～16：00	第二部	ミニレクチャー 「紅葉狩」の見どころ　浅見慈一 住職のお話　三吉廣明
16：00～16：15		休憩
16：15～17：40		竹灯籠能「紅葉狩」 浅見慈一　他

◎入場料（全席自由）
一部・二部通し券　一般 6500円　学生 4000円
一部のみ　一般、学生共に 2000円
二部のみ　一般 5000円　学生 2000円

◎チケットお申込み（受付開始予定　9月15日～）
電話予約▶カンフェティチケットセンター　TEL：0120-240-540（平日 10 時～ 18 時）
WEB 予約▶ http：//confetti-web.com/
◎お問い合わせ 代々木果迢会　TEL：03-3370-2757（平日 10 時～ 18 時）
E-Mail：info@yoyoginoubutai.com

朝丘雪路さん新盆供養

日照上人畏友の伊東深水画伯を父に持つ女優・朝丘雪路（加藤雪江）さんが、本年4月27日に亡くなられました。7月16日、当山の盂蘭盆施餓鬼において新盆供養されました。写真は、3年前桜の候に当山来山の折、当住上人、久美夫人、日照上人五女の恵子さん等と記念撮影した在りし日の朝丘さん（前列左から2人目）

正隆会（SHORYU-kai）

月例講ご案内

【SHORYU-kai】午後2時開催

当山では、毎月第2土曜日午後2時より月例講正隆会を開催しております。仏教や法華経についての勉強会や写経会、またウォーキング課外活動を行っています。檀信徒、ご友人どなたでも参加できます。例会では、毎回1時半より正隆廟墓前法要を奉修しております。

9月8日（土）	勉強会「法華経の略要品」拝読 －6－
10月13日（土）	宗祖御会式御正当唱題行・勉強会
11月10日（土）	写経会
12月8日（土）	三千遍唱題行・勉強会「新テキスト1」
1月12日（土）	初題目・勉強会「新テキスト2」
2月9日（土）	勉強会「新テキスト3」
3月9日（土）	写経会

鵠沼・桑港から（KUGENUMA & SAN FRANCISCO）

晴明庵
7月23日　炎暑の中、宗務院渡部憲亮上人ご法話、十余名にて盂蘭盆法要、無縁塔供養を唱題奉修致しました。
8月22日　恒例の楠山家唱題供養の後、伊東港より船にて俎岩・日蓮聖人御尊像前にて海施餓鬼ご回向を行いました。

日蓮教会
7月29日　市内は気温が20度以内という涼しさのなか、日蓮教会盂蘭盆法要が奉修され、新盆を迎えられたお二人はじめ、各家の供養が奉修されました。

当住上人の宗務院 DIARY

5/22 ▶第2回責任役員会議	6/15 ▶久永・渡辺両師歓送迎会 於 銀座古窯
5/23~25 ▶第73次定期宗会	6/28・29 ▶法華宗連絡協議会 於 熱海後楽園ホテル
5/30 ▶第3回責任役員会議	6/29 ▶学務協・内局会議 於 尼崎興隆学林
5/30・31 ▶30年度宗務所長会	8/29・30 ▶宗門史編纂委員会
6/6 ▶第4回紛議懲戒審査会	
6/13 ▶法華宗連絡協議会・カレンダー会議	

妙壽寺 2018-19 秋冬春スケジュール

9月23日（日）	秋季彼岸会合同法要 初座：11時、第二座：2時
11月3日（土・祝）	御会式・宗祖御生誕800年慶讃法要並びに昭和本堂落慶35周年記念法要　2時 **お稚児さん募集**（別紙参照）
11月24日（土）	一之輔落語×竹灯籠能「紅葉狩」
1月1日（火・祝）	元旦国祷会
2月3日（日）	節分会
3月21日（木・祭）	春季彼岸会　中日法要

＊催しの詳細は、別途お知らせいたします。

参加者募集　猿江別院御写経会のご案内

日時：各回すべて金曜日、午後1時より午後7時に開催

第4回　平成30年10月5日
第5回　平成30年12月7日
第6回　平成31年　1月11日

お知らせ　本年より開催しております「猿江別院御写経会」は、引き続き平成31年も開催いたします。なお、開催日程等につきましては、改めてお知らせ致します。

本堂落慶35周年記念インタビュー

第20回

日淳上人第五十回忌、日惠尼上人第三十七回忌
両上人の年回忌にあたり思い出を語る(2)

出　席：鰻割烹「あつみ」葉山常司氏　京懐石弁当「小松」本多保幸氏
聞き手：三吉廣明上人
その他出席：「あつみ」葉山やきえ氏（葉山氏妻）・葉山 昭氏（葉山氏長男）

（平成30年5月2日（水）於：久我山・鰻割烹「あつみ」 14時30分より）

住職　本日はお集りいただき、ありがとうございます。久我山の鰻割烹「あつみ」の葉山さん、そして本拠地は石神井にありますが、京懐石弁当「小松」の小松さん、お二方にお話を伺います。よろしくお願いします。

私としては、お寺に深いご縁があって今日までお出入りいただいているということと、今年の1月に私の師父顕道上人の五十回忌、母堂妙惠尼上人の三十七回忌、明後日の5月4日が命日ですが、両上人ともお二方には深いご縁があり、そのあたりを伺いたいと思います。

妙壽寺とそれぞれのご縁

住職　私が物心ついたときには、あつみさんの店でちょろちょろしていました。ここではなく、移転する前の店でした。開業したのは何年ですか。

葉山常司氏（以下、葉山＝敬称略）　昭和35年5月です。

住職　ということは、私は3歳ですね。（笑）私が物心ついたときから父に連れられて伺っていましたが、父がアメリカから帰ってきたのが昭和30年だから、たかだか5年ですね。父は千歳烏山と久我山の駅を電車で使っていたから、店の前を通るんですね。

葉山　歩いていたね。何げなくぽっと寄ったんだよね。

住職　父がですか。

葉山　そうそう。だけど、住職は割に気が短かった、若かったから。

住職　それはもうよく知っています。

鰻割烹「あつみ」前にて
左から、葉山昭さん、葉山常司さん、葉山やきえさん、三吉廣明上人、本多保幸さん

鰻割烹 あつみ「つかさ」

葉山　「ちょっと時間がかかるよ」と言ったら、「ああそうか、じゃあ後でいい」なんて言って、それからお茶を飲んで帰るようになった。だから、何げなく、お客さんというよりも、何となく、まだ会ったばっかりだけど、本当に長いつき合いがあるような感じで、「おう！」ってなもんでさ。だから、住職と呼ばなかった。おやじさん、おやじさんだった。

住職　あつみさんは昭和何年生まれですか。

葉山　昭和9年。

住職　父は大正14年生まれですから、10歳違いのお兄さん、つまりおやじさんという形の仲ですね。あつみさんご自身は、愛知県渥美半島のご出身ですね。開業が昭和35年というと、20代で上京したということでしょうか。

葉山　19で高校を卒業して、そのまま東京へ。

住職　最初の修業先はどこでしたか。

葉山　神田の日本料亭。

住職　鰻はどちらで修業されたのですか。

葉山　ここ（久我山）へ来てから、鰻屋さんがなかったから、鰻をやろうかということになった。

住職　えっ、それからすぐにですか。

葉山　そうそう。料亭では、夏場は鰻を出していたから。一寸角でぶつ切りにして、焼いて蒸して、骨を抜いて、だしをつくって煮つめて。舌の肥えた神田、本郷界隈の社長さんたちがお客さんだから、よく出る。

住職　本多家（「小松」）の場合は、おばあちゃんがキーワードだと思っています。私の母方の祖父母が戦争を挟んで、布教のため伊東にいました。そのときに、本多のおばあちゃん（本多やす・平成2年10月20日逝去、92才）との出会いが縁の始まりです。おばあちゃんは、もともと市川で「小松園」という料理屋を経営していて、旦那さんが大正時代に小結まで昇進した鶴ヶ濱*というお相撲さんでしたね。

本多　そうです。市川の店を売って、伊東で開業しようとしていたんですが、一応、隠居暮らしをしていたようです。私もそのころはまだ小さいですから、そのあたりの事情は、よくわからないのですが…。

住職　それで楠山さんともご縁があり、そこに藤波の祖父母がいて、私の母（当山先代妙惠尼上人）もお世話になっていた。そこでご教化を受けて、おばあちゃんが晴明庵のご信者になったということなんです。それで、昭和40年に祖母藤波先生（藤沢晴明庵第四世正行院教導妙龍法尼位）が亡くなるまで、終戦の後からずっと晴明庵に通っていただいていました。だから、お料理などには、おばあちゃんは折り紙つきだったわけです。

本多　いえいえ、そんなことはないです。

住職　その後、私がちょうどあつみさんに子供のころに遊びに行って、ひどい話ですけど、厨房に入って、おもしろいものだから、天ぷらは何で揚がるのか、衣を揚げ油の中にちょっと入れてみると、「わあ、何だ、天ぷらはこうなるんだ」みたいなことで遊んでいた記憶があります。その時代のもう少し前ですが、今度は、おばあちゃんの息子、つまり本多さんのお父さんが吉祥寺にお寿司屋さんを出店することになったんですね。

本多　はい。それは昭和29年です。やはり「小松」という名前で。

住職　そのお寿司屋に行った時の写真があるんですよ。それから、今度は、新井薬師に移転ですね。

本多　昭和36年に引っ越しました。

住職　創業は、あつみさんと同時期ですね。

本多　そうです。そのときに先代の顕道上人に店を探していただいたんです。

住職　ああ、そうですか。

本多　あのころ吉祥寺からどこへ移るかということで、おやじもいろいろ探していまして、顕道上人が、じゃあ、知っているところがあるかもしれないから、探そうかということで、探してくれたのが大久保石材店で、何しろ面倒見が本当によかったですね。

住職　私が新井薬師の店で覚えているのは、3年前に亡くなった安田顕實さんと2人で行った思い出があります。やはり私が子供だったので、うろ覚えですが、吉祥寺の店よりも新井薬師の店の方なんです。

本多　そうでしょうね。吉祥寺のときは、住職は本当にまだ小さくて、やはり安田さんと一緒に来て…。

住職　それは、安田さんは私の子守りだったから。

両上人の思い出
お人柄とエピソード

住職　「あつみ」のお母さんは、私の母を覚えていますか。

葉山やきえ　覚えていますよ。

住職　あつみさんで待ち合わせて、ご夫婦で食べにきたことも…。

葉山やきえ　そうそう。

京懐石弁当 小松「懐石料理」

葉山　お母さんは月に1回ぐらい、伊東と稲取、熱川に行っていましたね。

住職　そうそう。晴明庵とか、伊豆方面へ法務で行っていましたから。

葉山やきえ　車で送っていきましたよ。

住職　送っていたこともある。

葉山　いや、毎回ですよ。ちょっとそこまで送ってと言うから、今日は伊東だよって。途中でお茶を飲んで。お母さんはコーヒーが好きだから。

住職　その当時、高速道路はないでしょう。すごいですね。

葉山　（国道）246で平塚へ行って、平塚から一般道路を走って、湘南の海岸へ出て。それで、最後は伊東。ここで「じゃあ、さようなら、気をつけて」って。いつも途中でうどんを食ったり、そばを食ったり、コーヒーを飲んだり…。

住職　だから、うちの母が倒れて病床にあるときも、よくあつみさんが来て、車椅子の母の無聊を慰めるために、いろんな昔の話をしていましたね。

次は本多さんのお話です。先々代の日照上人が昭和22年から26年まで半月に一遍、本山の法務で京都に通っていましたが、その都度、池端法衣店さんが駅まで迎えに来てくれていました。当時は「特急つばめ」で東京から京都まで9時間かかります。さて、その母は、お寺さんに頼むのはいろいろな支障もあるし、お仕事つながりということで、池端さんに頼んだのです。その池端さんに紹介された京料理店に、本多さんは何年修業されたんですか。

本多　3年半ぐらいです。まず、池端さんのほうから3軒紹介するから、その中から選べと言われました。料理屋「萬亀楼」と、仕出し専門「近新」、それから、私が勤めた京料理「井傳」です。

住職　それは住み込みですか。

本多　はい、住み込みです。

葉山　だから、お母さんと京都に用があって一緒に行ったとき、本多さんの修業先の前を通ったときに教えてくれたんですよ。

住職　本当ですか。池端さんには、私も京都に連れていかれたときに、母は「用事があるから、あなたは池端さんの女子従業員さんと観光バスに乗りなさい」と言われて、観光バスに乗ったときの集合写真が残っています。ですから、池端さんは先々代から、2代、3代でつながっているお寺は大事にしていただいていますよ。

師父が亡くなったのは、私は11才でした。本当に短い期間でしかそういう風景というのは見ていないんです。あつみさんと本多さんのほうが、うちの父と母が一緒にいる風景というのは多分よく見ておられると思います。夫婦で仲は良かったんですか。

本多　はい、良かったですよ。

葉山　仲悪くはないね。だって、お母さんがおやじさんの言うことに決して反発しなかったから。

本多　そうです、そうです。

葉山　お母さんは、お父さんが出かけちゃってから、「全くしょうがない」と愚痴をこぼすけど、2人のときは決して言わない。「はい」ってなもんでしょう。

住職　やっぱり大正の女子ですからね。今、本多さんのお顔を見ていて思い出したのは、母が昭和50年に脳梗塞で倒れたというときに、あつみさんもよくお見舞いに来ていただいたけれど、本多さんはまたご縁が深く、お寺にとって最も親しい早苗さんという総代さんが、私がまだそのとき高校ぐらいだったので、すごく心配して、「妙壽寺を囲む若い会」というのをつくって、旅行に行ったんです。あのときはお寺に来るお坊さんの若い人たちも入れて、白樺湖とかに行って、それは二、三回ありました。

本多　そうですね。あんまり数は多くはなかったけども、何回かありました。お寺の庭でバーベキューをしましたね。店から材料を持っていったりして…。

住職　そういうこともありましたね。今でも無性に、本多おばあちゃんがつくったものが食べたくなりますよ。例えばマグロの煮たのとか、おからの炊いたのとか。未だに食べたいと思うのは、おばあちゃんの影響がありますよ。

本多　それはありがたいことですね。

法事・法要での会食の役割

住職　これはぜひ言っておきたいことですが、ともかく妙壽寺で外から来た人をおもてなしするのはあつみさんの鰻です。実は2年前に、沼津のご本山光長寺に行ったときに、有名な老舗の桜家の鰻を食べましたが、特段に美味しいとは思いませんでした。ふだんあつみさんの鰻を食べているから、みんながびっくりするほど美味しいということではなかった。あつみさんは、老舗の鰻専門店でみっちり修業したように思っていましたが、実は神保町の日本料理屋さんだったとは驚きました。

本多さんは、京都の懐石を習い始めたときの苦労とか、関東と全く違うぞというのはありましたか。

本多　やはり味ですね。関東の濃い味から、向こうで言ういわゆる薄味。ただ薄いと感じるんですが、味にコクがある。奥深いです。

住職　あと、季節感を取り入れるのは圧倒的に多いですね。

本多　そうですね。やはり四季は大切にしていて、料理も春夏秋冬の季節のものを必ず入れていますね。

住職　だから、あつみさんの京料理の鰻を食べ、本多さんの京料理を食べることができて、幸せなんだなと思わなきゃいけない。今は、物流・交通などの発展で、東京にも山ほどの京料理店はあります。そういう時代の中で、私はお二方に申し上げたいのは、できる限り、お寺のご法事にお見えになるお檀家さんが、境内の花や草木のある自然の中でご先祖を思い起こしながら、あつみさんの江戸料理の鰻であったり、本多さんの京懐石料理を食べていただきたいです。今は本当に核家族化が進んで、少子・高齢化で、法事がだんだん減っています。

そういう中で、そういうものを味わっていただいて、ご先祖に思いを馳せていただく時間は大事だと思います。こういう機会がなければ親類などに会う機会はめったにないです。会食する場所を提供させていただくことで、お寺としてのある種の大きな役割ではないかと。その役割の中で、美味しいものを食べるということが幸せを感じることの一端として、すごく大事ではないかと思っています。

葉山　法事などの集まりがだんだん減ってきているのは確かですね。住職が言うように、法事にはお寺さんに集まって会食するというのは、本来、習慣化していたことですね。

住職　本多さんは、これからの京料理はどのようにお考えですか。

本多　今は本当に、あっという間に関西方面へ行けるようになっているし、関西のものがこっちにもばあっと出てきているから、味的には昔のように関西の味、関東の味というのは、ごちゃごちゃになっちゃっているみたいな感じはありますね。

葉山　だから、生粋の京都というのを守り切れない気持ちが出ちゃうと思うんですよ。

本多　だから、そこのところが…。京料理と江戸料理は、やはり違いがあるんですよというようなのはやりたいなと思いますけどね。最近は、材料もお肉類を入れないと、お客さんが喜ばないというのもありますし。入れていくような形にもなっていくから、多少は変わってはいるけれども。でも、やはり懐石の、京都の独自な味などは残していきたいと思います。

住職　昭さん、最後にご要望はありますか。

葉山昭　「あつみ」を単体で考えると、父が始めて、母が加わってという時代と今を比べると、その昔はやはり、あつみは親族の企業なので、私の両親の親戚が泊まり込みで手伝ったり、みんなが座敷で雑魚寝しながら仕事もしてというのが、お寺さんなんかの乗りというか、ちょうど波長が合って今までは回っていました。今は時代がすっかり変わってしまって。両親も年をとってきて、手伝っていた姉も結婚して家を出てしまった。父が店を始めたときの状況と変わってしまって、これからどうするか、変えざるを得ないと思っています。

住職　お寺も全く同じですよ。昔は、お寺の行事のときのお弁当は全部あつみさんにつくっていただいて、それをご婦人会等の方たちが全部詰めていただくということをやっていました。70年、80年ぐらい前は、婦人会の方たちが泊まりがけで全部煮炊きをやっていたという時代もあったようですね。

葉山　夏は750個、秋は600個と決まっていた。学校も注文するお弁当は100単位でしたが、学校そのものが変わってきたから今は少ない。彼（昭氏）もここを引き継ぐときは、それだけの大きい調理場は要らないだろうから。

住職　なるほどね。

葉山　いずれ彼には完全に継いでもらおうと思っており、店の営業権は彼ですから、責任を持って、やるだけやって、嫌なら嫌でやめりゃいいんだからと。

本多　それは、うちもまるっきり同じですから。

住職　ともかく私としては、これからも妙壽寺での法事のお料理のほうをご両家に引き続きお願いして、お檀家さん方にも、お寺で過ごす大事なひとときにご協力をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

今日はお忙しいところ、ありがとうございました。

葉山・本多　ありがとうございました。

*鶴ヶ濱増太郎（つるがはま・ますたろう 明治27年～昭和14年）奈良県北葛城郡當麻町出身。荒磯部屋所属。最高位は西小結。本名は西本増太郎。妙壽寺に墓所がある。ちなみに当山には幕内力士の墓所が数基ある。